



思い出に残る毎年恒例の合宿。
2024年は栃木県南那須町の道場にて、
一週間にわたって稽古を行いました。



金子さんは、実際に合気道に打ち込んでみて、おもしろさや魅力を次のように教えてくださいました。「合気道で大事なことは、筋力ではなく関節の働き。お茶碗を持つ力があれば演武はできるといわれ、運動神経に頼るのでなく、人間の体や関節の仕組みを頭で理解する必要があり、それがおもしろいです。例えば受け身の、刃物をいなす想定の子なども、関節の仕組みを理解しないとできません」。玉田さんも頷いて、「スムーズな演武には、考える力が大事なんです。自分と相手の関節の働き、体の動き方とタイミングを、第三者視点で想像できなければいけません。合気道はここが奥深くて、夢中になっていきました」。玉田さんはこうした稽古から客観的な思考力が養われ、普段の生活や学業の問題解決にも役立っているといいます。そして合気道部に所属しながら2026年の愛知・名古屋アジア競技大会、カバディ競技にも参加予定の、運動神経抜群の関根さんは、「シンプルに演武の芸術的な美しさに惚れ込みました。師範や先輩の演武は憧れで、私も上達して美しい演武をしたいです。また、近いうちに初段を取得したいです」と、目標も語ってくれました。

合気道部としての一番の目標は、毎年11月に日本武道館で行われる全国学生合気道演武大会です。坂口さんによると、「年間の活動の集大成で、3年生にとっては現役最後となる大会です。これまで磨いた技術をしっかり表現したい。後悔のない美しい演武がしたいと、毎年気合十分に稽古



世田谷祭に参加し、TCUホール(7号館)にて、迫力と静寂が融合した「合気道部演武会」を披露しました。

を重ねて臨んでいます」。そうした日々の努力が実を結び、2024年大会では連盟賞を獲得! 受賞は参加73校のうち5校のみ、日頃から懸命に稽古に励み、かつ学生合気道連盟への貢献度が高いと評価された栄誉でした。「閉会後は本当に盛り上がりました。OBの方も喜んでくれましたね」(坂口さん)。

OBの話題に及び、宮川さんは2023年に行われた、合気道部創立60周年記念稽古と式典も思い出深いと語ります。「創設期のOB、OGの方も参加してくれました。稽古では80歳とは思えないような、先輩方の流麗な動きに驚き! 合気道は生涯スポーツなんだと目の当たりにしました。またOB、OGとの交流を通じ、私達も合気道部の歴史、自己錬磨の精神性を大切に継承しなくてはならないと感じました」。

坂口さんをはじめ、部員の方々は合気道部の伝統を継承していくうえで、合気道への関心、認知度を高める必要があると考えています。そのために、「キャンパスの中庭で演武を披露して、合気道の魅力を伝えたい」、「カッコいいムービーを作り、SNSなどで注目を集めたい」、「魅力的な先輩が多いということを新歓でもっとアピールしよう」など、日頃から意見交換も活発に行っています。合気道の精神に惚れ込み、部のさらなる発展に尽力する彼らの活動は、きっと学生生活の大きな財産となることでしょう。

2025年11月、日本武道館で行われた第64回全国学生合気道演武大会の様子。

